

Voice



むとう まさかず
武藤 征一さん
白石区ふるさと会
会長

昭和51年3月31日に設立した白石ふるさと会が40周年を迎えられたのは、本日まで参加の皆様方のお陰とただただ感謝の気持ちでいっぱいです。今後も未来志向により、開設した白石郷土館を情報発信基地として「人情味と風格あふれる素晴らしいまち・白石区」に向けて前進していく所存です。



さとう よしかず
佐藤 善一さん
白石市姉妹友好都市
交流協会会長

交流40周年を記念して昨年の白石夏まつりには、札幌市白石区から武藤会長、可児敏章区長を初め10人の方々にご来白いただいたほか、民間でも交流は盛んに行われています。長年にわたり交流を続けられたのは、白石区ふるさと会の皆さん、白石区民の深いご理解とご支援によるものと感謝申し上げます。今後もこの交流がより一層深まることを祈念いたします。



1_記念式典後の祝賀会では、白石市と白石市姉妹友好都市交流協会から贈られたこも樽で鏡開きが行われたほか、復活した白石産ササニシキのおにぎりも振る舞われました
2・4_登別市からの訪問団による「鬼おどり」や白石区連合女性部による「白石音頭」が披露され会場を盛り上げました 3_記念講演を行った片倉さんと甲冑姿の山田市長を中心に記念撮影する甲冑工房片倉塾の皆さん

永遠の友好と変わらぬ交流を宣誓！

「登別市・札幌市白石区交流宣言」署名式

登別市と札幌市白石区は深い絆で結ばれている。すなわち、両者はともに片倉小十郎1万8千石の城下町宮城県白石市に由来を持つ。

2市1区のゆかりは、片倉家中が北海道移住を決意したことに始まる。明治2年、太政官から幌別郡を拝領された片倉家中が登別に開拓の鋤を入れ、また明治4年、新たに開拓使貫属となった片倉家中が最月寒の地を開いたことから、この地は「白石村」と名づけられ、現在の札幌市白石区の前身となった。

この歴史的なゆかりに基づき、2市1区はこれまで友好と理解を深め、相携えて発展することを祈願して交流を続けてきた。

ここに本年、先人の足跡を偲び、その遺徳を後世に継承し、永遠の友好と変わらない交流を行っていくことを誓約する。



▲山田市長立ち会いのもと「宣言書」に署名した小笠原登別市長（左）と可児札幌市白石区長（右）



白石市・札幌市白石区友好都市交流40周年
友好・親善交流を誓い合う！

白石区ふるさと会設立40周年
白石郷土館開設記念式典・祝賀会が開催

11月26日、「白石区ふるさと会設立40周年・白石郷土館開設記念式典」が札幌市白石区複合庁舎5階区民ホールで開催されました。この日の式典には、札幌白石区と、白石市からは札幌白石親交会が部会となっている白石市姉妹友好都市交流協会会員から募った市民団など約50人が出席したほか、姉妹都市の登別市や旧片倉武士団乗船の成臨丸が座礁した海岸の街、木古内町の関係者など約330人が出席。今後のさらなる友好・親善交流を誓い合いました。

札幌市白石区と白石市が友好都市としての関係を確立したのは、明治4年「片倉家」家老の佐藤孝郷を中心とする家臣団が入植し、現在の札幌市白石区の礎を築いたことにより、昭和43年、白石市と札幌市白石区の両白石中学校が姉妹協定を締結。昭和45年、札幌市旧白石村開基100周年記念式典に白石市長が招待されたことをきっかけとし、両市の関係が再認識されたことにより、これまでさまざまな交流が盛んに行われてきました。

式典で秋元克広札幌市長は「白石区ふるさと会が設立した40年前の札幌は、昭和47年の冬季オリンピックが終わり、政令指定都市へと移行し、地下鉄が開通するなど、大きく発展を遂げた時代でした。同会がこれまでの長きに渡りさまざまな事業に取り組み、その活動は、札幌市民にとって欠かすことのできないものとなっています。開設した白石郷土館は

はじめ、同会の活動が市民にとって白石区の歴史をより深く知り、愛着を深めるきっかけとなることを心から願っています」とあいさつ。

山田市長は「戊辰戦争の後、片倉家臣団があらゆる困難を乗り越えて現在の白石区の礎を築いたという歴史をもとに交流が今につながっています。以来、白石区ふるさと会、札幌白石親交会を中心に白石区ふるさとまつり、しろいし夏まつりへの相互参加や中学生の主張発表による生徒の相互交流などで親交を深めてきました。東日本大震災の際には、物心両面に渡るご支援をいただき多くの市民が勇気をいただきました。この式典が一層の励みとなりました。この式典が一層の友好関係を促進する新たな歴史の始まりとなることを祈念します」と祝辞を述べました。

小笠原登一登別市長が「白石区と登別市は伊達藩の家臣片倉重信の入植を起源とするいわば兄弟の関係です。今までもその歴史的ゆかりのもとに互いの友好交流を続けてきました。白石区と登別市は鉄道や高速道路の利用で1時間あまりと気軽に行き来できる距離にあります。これを機会にあらためてさまざまな場面で交流が図られることを期待しています」と祝辞を述べました。

式典の最後には、白石片倉家第16代当主で青葉神社宮司の片倉重信さんが「小十郎の子孫と生まれて」と題した記念講演も行われ、参加者は片倉さんの生い立ちや神秘的な体験にまつわる話に真剣に耳を傾けていました。